

令和6年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等及び令和7年度活動計画

評価：◎、○、△、×

別紙

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R6	②今年度の活動内容 R6	③自己点検及び改善すべき事項 R6	④評価概要 R6	⑤評価 R6	⑥改善事項 R6	⑦改善事項を踏まえたR7活動計画
1	主管会議	校長	総務企画係	20	定例会議13回、臨時会議7回 ①本校の重要事項について適切に審議した。 ②定例会議13回、臨時会議7回（うち、1回はメール開催）開催。 ③運営会議・教員会議その他委員会等の意見・要望を考慮しつつ、適切な審議および判断を下した。 この他引き続き会議資料をペーパーレスとし、経費削減・業務削減を行った。	適切に実施した。	活動は適切に行われている。	◎	連絡調整会議では、学校行事の在り方について、コロナ禍の実施方法がそのまま踏襲されているため、再検討されることを期待する。	①主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制として、運営会議（協議）→主管会議（審議・承認）→教員会議（報告・周知）の流れで開催し、主管会議では本校の重要事項について審議する。 ②年間13回の定例主管会議（毎月1回※3月は2回）および、緊急を要する場合には臨時主管会議を適宜開催する。 ③運営会議・教員会議その他委員会等の意見・要望を考慮しつつ、適切な審議および判断を下す。 ④主管会議構成員連絡調整会議を毎週開催する。 ⑤各種学校行事について、コロナ禍において見直した実施方法を改めて検討する。
2	運営会議	校長	総務企画係	14	定例会議13回、臨時会議1回 ①本校の運営事項について協議した。 ②定例会議13回、臨時会議1回開催。 ③各学科・その他委員会等の意見・要望を共有しながら、適切に協議した。 この他引き続き会議資料をペーパーレスとし、経費削減・業務削減を行った。	適切に実施した。	活動は良好である。	○	学校行事の在り方について、令和6年度もコロナ禍の規制された状況下で実施した方法をそのまま引き継いでいる。学校行事の実施方法や内容については、特に運営会議で検討されていない。R7年度は会議で語って決定していただくよう期待する。	①主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制として、運営会議（協議）→主管会議（審議・承認）→教員会議（報告・周知）の流れで開催し、運営会議では本校の運営事項について協議する。 ②年間13回の定例運営会議（毎月1回※3月は2回）および、緊急を要する場合には臨時運営会議を適宜開催する。 ③各学科・その他委員会等の意見・要望を共有しながら、適切に協議する（学校行事のあり方も必要に応じて協議の対象とする）。
3	スパイラルアップ会議	校長	総務企画係	1	①本校の各種点検に関することについて、調査および審議した。 ②点検評価・FU委員会および将来計画委員会と連携し、本校の会議・委員会等の活動や点検評価、FD活動のブラッシュアップを図った。	適切に実施した。	適切に実施されている。	◎		①本校の各種点検に関することについて、調査および審議する。 ②点検評価・FU委員会および将来計画委員会と連携し、本校の会議・委員会等の活動や点検評価、FD活動のブラッシュアップを図る。 ③自己点検の時期の見直しを図る。
4	教務会議	教務主事	教務係	31	①入試広報について、在校生からのメッセージを直接中学生に届けることを重視し、中学校訪問、オープンキャンパス、高専祭等で実現した。 ②入試方法の改善について検討し、令和9年度入試からの推薦基準の変更を決定した。	入試広報の改善は行ったが、入学志願者数の増加にはつながっていないので、引き続き入試広報活動の改善を進める。	活動状況は良好である。	◎	引き続き、効果的な入試広報活動についての検討が期待される。	①入試広報について、在校生からのメッセージを直接中学生に届けることを重視し、中学校訪問、オープンキャンパス、高専祭等で実現する。 ②令和9年度入試からの推薦基準の変更を決定したので、この入試方法の改善について中学校などに周知を確実に行う。
4	-1 FD活動推進会議	教務主事	教務係	4	①FD講演会を2回（9/11、11/27）実施した。 ②授業参観週間を2回（5/20-24、1/20-24）実施した。	当初の計画通りの活動を実施した。引き続きFD活動を推進する。	計画した活動が実施されている。	◎		①FD講演会を企画・実施し、FD活動を推進する。 ②授業参観を実施する。その内容について検討する。
5	専攻科会議	専攻科長	教務係	11	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、カリキュラム改訂、特例適用の変更届への対応について実施した。 ①入学定員と実入学者数との乖離を縮小させることに関する検討を行い、R8年度専攻科入学選抜より、最大合格者数の削減、後期学力試験の合格判定方法等、一部実施方法を変更することを決定した。 ②専攻科修了要件にTOEICスコア425を設定していたが、R7年度に専攻科入学する学生（R8年度修了の学生）より、その修了要件を廃止することを決定した。 ③特別研究2の研究題目について、英語併記でweb公開することを決定した。 ④昨年度の特例適用専攻科の審査において、多くの個表が不適となった。この問題は専攻科のみの課題ではなく、学校全体の課題である。そこで、今後の改善に向けて、本校における将来計画委員会「中堅教員による将来ビジョン検討ワーキンググループ」に対して、専攻科会議より改善案の一例を提起し、そのワーキンググループにおいて具体的な改善策等についての検討を依頼した。 ⑤特例審査の変更届出により、新たに個表5件が適の判定を受けた。 ⑥2、3年後の専攻科カリキュラム改訂について検討し、現在の3つのグループを廃止することを決定した。また授業科目の変更に関しては次年度に検討することになった。	活動状況は良好である。特例適用専攻科の審査を踏まえて、今後の長期的な対策として、教員の研究業績の積み増しに関する検討が必要がある。特に、本校における将来計画委員会「中堅教員による将来ビジョン検討ワーキンググループ」における早急な検討を期待する。	活動状況は良好である。	◎	特例適用専攻科の審査に関わる件、カリキュラム改訂に関わる件について、継続した検討が期待される。	①2016年度改組より9年を経過した先端融合開発専攻科のカリキュラムについて時代の変化に対応した見直しを検討する（年度計画25頁目に記載）。 ②R5年度特例審査により加除された個表による特別研究指導への影響として課題および効果を検証する。
6	学生会議	学生主事	学生係	28 (うち1回臨時)	定例会議の主な議題を次に示す。日常的な交通安全指導・校内巡回状況の情報共有し、校内の風紀維持に努めた。学生会の活動と行事の進捗と運営について指導状況を共有し、健全で楽しい学生会活動となるように努めた。クラブ活動援助金は、前年度の支出が次年度の予算になっており、各クラブの公平性を確保するための新たな予算立て方法を決定した。適宜、表彰、懲戒、奨学金への推薦について審議した。また、令和5年度より審議事項を計画的に進めることによって、今年度の定例会議回数は昨年度と同じ27回であった。 その他会議では、学科から挙がってきた合宿所直直に関する業務の在り方について、現状を整理し、運営・主管会議に報告した。その内容は、高専教員の業務の見直しに対して有用であった。	活動状況は良好であり、エフォートも概ね適正である。学生会活動が、学生のみならず、広報や地域へ貢献できるように、他の会議や委員会との協力を検討する。	計画的な目標に対して活動が行われている	◎	他会議等との連携を期待する	①令和6年度と同様の登校指導と校外の巡回体制を維持し、引き続き校内の風紀維持に努める。 ②高専祭やクラブ活動等の学生会活動を利用して、本校の知名度向上、地域貢献、近い将来の入試倍率向上に繋がるような催し等を他会議と連携しながら企画し、参加する。
7	寮務会議	寮務主事	寮務係	29	①寮務会議は予定通り適切に実施した。緊急に審議する案件が生じた際は対面会議を追加した。更に追加審議が必要となった際はteams上で議論し、意見を集約した。 ②寮生会活動については、新入寮生歓迎行事、寮祭、球技大会、忘年会などを活発に実施することができた。また、寮内学習会を定期試験2週間前に開催し(4回)、寮生同士の学習の場の構築に努めた。 ③国際交流室主催という形で短期留学生の歓迎会を開き、交流の機会を設けた。また、今年度より短期留学生も寮祭や忘年会等の寮生会活動に参加できるようにし、寮生と留学生との交流の機会を増やした。 ④学外の学寮指導員に当直を委託することによって、教員の当直業務の負担軽減に努めた。今年度からは学寮指導員を1名増員して4名体制とすることで寮務委員の当直回数を年2回まで削減した。	活動状況は良好である。	4項目の活動が適切に行われている	◎		令和6年度活動計画を継続し、よりよい寮にしていこう。 ①定例会議を、前期は毎週木曜日、後期は隔週木曜日の開講期間に開催し、安全で快適な集団生活を円滑に進める為の方策を講じる。 ②寮生会などを通じて、学び合いの場として寮という場と制度の基礎を構築する。 ③留学生と日本人学生の交流を進める。 ④寮内のセキュリティ向上と教職員の業務負担軽減に努める。
8	将来計画委員会	教務主事	総務企画係	4	①学力検査の志望順位が成績等に及ぼす影響の統計的分析を行った。 ②中堅教員による将来ビジョン検討WGにおいて、出席管理システム導入等の検討・提案が行われた。	当初の計画通りの活動を実施した。引き続き将来計画について検討する。	計画通りの活動が実施された。	◎		①IRIに基づく教学マネジメントを継続して推進する。 ②中堅教員による将来計画WGを継続して多様な視点から将来計画することを検討する。 ③教育目標および三つの方針を検討するWGを設置し本校教育の改善を検討する。

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R6	②今年度の活動内容 R6	③自己点検及び改善すべき事項 R6	④評価概要 R6	⑤評価 R6	⑥改善事項 R6	⑦改善事項を踏まえたR7活動計画
9	財務・施設委員会	校長	財務係 施設係	5	各種予算・決算や施設整備に関する事項について、十分な審議のうえ実施した。 ①構内施設の改修・利用計画について令和6年度の設備整備マスタープランについて審議を行い、承認した。 また、令和7年度および令和8年度の施設整備費補助金概算要求事業について評価を実施し、今後の対応を検討した。特に、D寮の評価については、機構本部との意見交換を経て対応を進めることとした。さらに、営繕事業については、学内の施設環境の向上を目的とし、優先的に改修を進めるべき事項を決定した。 ②学内予算配分について令和5年度決算を確認し、学科ごとの予算執行状況を精査した。残額がマイナスとなった学科については、今年度の予算配分の中で調整を行う方針とした。 令和6年度の当初予算については、大規模改修費用を考慮しつつ、全体のバランスを見ながら配分を決定した。一般経費については前年度より減額となったが、教育研究活動の継続を考慮し、必要な部分への配分を行った。また、年度途中の予算調整についても、執行状況を踏まえながら適切に対応することとした。	適切に審議され、実施した。 改善事項は特になし。	適切に実施された。	◎		①施設整備費補助金概算要求事業や営繕事業など構内施設の改修・利用計画について、キャンバスマスタープランの策定とともに十分な審議をしていく。 ②学内予算配分については、ヒアリングの結果等を踏まえ十分な審議を実施し本校の機能強化を図る。
10	入試運営委員会	教務主事	入試係	6	①推薦基準の変更等入試方法の改善を行い、アドミッション・ポリシーに基づいた実施要項、実施要領等を通して入学者選抜を実施した。	当初の計画通りの活動を実施した。引き続き入試に関する改善を検討する。	活動計画の通り、適切に活動していた。	◎		①推薦基準の変更等入試方法の改善を踏まえて、その効果を分析し今後の入試制度を検討する。
11	広報委員会	研究主事	総務企画係	2	以下3件を検討した。 ①緊急時対応の情報のウェブ公開について掲載場所や体裁については、検討を進めて早急に実現する。 ②岐阜高専通信について本通信は強制的な業務ではなく、あくまでも有志により作成されるものとして進めた。この広報誌を用いて、高専だよりの補完による改善、ウェブコンテンツの拡充とした。 ③「文部科学省情報ひろば」における 広報展示企画の募集について全教職員に対し募集しているが、各所属で改めて周知いただくことになった。	予定の会議を行い、本校の広報活動で課題となる点を議論し、対応に進むことができた。	新たな取り組みも含めて適切に活動が行われている。	◎		広報活動の充実のために、以下の2点に取り組む。 ①高専だよりの外部広報に対応するための改善計画を検討する。 ②本校ウェブの効果的な活用のための改善計画を検討する。
12	人事委員会	校長	人事係	10 (3/10 時点)	①教員の採用・昇任の選考、教職員の人事管理、非常勤講師の選考について、随時適切な審議を行った。	適切に実施した。	随時適切に実施された。	◎		①教員の採用・昇任の選考、教職員の人事管理、非常勤講師の選考について、随時適切な審議を行う。
13	安全衛生委員会	校長	総務企画係 人事係 契約係 施設係	第2条 関係:1 第4条 関係:12	【第2条関係(防災対策)】 ①安全衛生委員会規程に基づき防災対策(第2条)に関する事項を審議した。 【第4条(安全衛生)】 ①事務部長を議長に、安全衛生に関する事項を審議した。 ②毎月1回委員会を開催し、教職員の危険防止・健康促進・労災防止等に関する事項を審議するとともに、感染症拡大についても産業医を中心に情報共有を行い、他の教職員に対して感染予防を啓発する取り組みを行った。	適切に実施した。	計画に沿って適切に活動が行われている。	◎		①安全衛生委員会規程に基づき防災対策(第2条)、環境保全(第3条)、安全衛生(第4条)に関する事項を審議する。 ②安全衛生に関する事項については、毎月1回委員会を開催し、教職員の危険防止・健康促進・労災防止等に関する事項を審議するとともに、新型コロナウイルス感染拡大についても情報共有および審議を行い、他の教職員に対しても感染予防を啓発する取り組みを行う。
14	点検評価・フォローアップ委員会	委員長	総務企画係	3	①令和5年度参加会における本校の課題をスパイラルアップ会議に提出し、将来計画委員会でまとめられた「令和5年度参加会における点検・評価による本校の課題への対応(計画)」を参加会で添付して報告した。また、令和6年度参加会における本校の課題をまとめた。 ②「中期計画ワーキンググループ」、「自己点検・評価実施ワーキンググループ」、「学習評価フォローアップワーキンググループ」が活動しやすいようにWG長、副WG長を置いた(第1回点検評価・フォローアップ委員会議事録を参照)。	改善すべき事項なし。	計画に沿って適切に活動が行われている。	◎		①参加会を実施し、外部評価報告書を作成する。課題を抜き出しスパイラルアップ会議へ提出する。 ②本点検評価・フォローアップ委員会の「中期計画WG」、「自己点検・評価実施WG」、「学習評価フォローアップWG」が活動しやすいようにWG長、副WG長を置く。
14	-1- 中期計画WG	委員長	総務企画係	3	下記の基準で点検を行った。 ①『年度計画の策定及び実績実施状況の自己点検・評価に関するガイドライン』に準じているか。特に箇条書きの表記方法。(アラビア数字の箇条書きをやめて丸印の列挙で統一) ②「年度計画」と「実施状況」の記載項目が対応しているか。 ③「年度計画」が定量的である場合には、「実施状況」も定量的に表現できているか。 ④「問題点等」の列に、「○」、「△」、あるいは「×」の記載はあるか。	改善すべき事項なし。	計画に沿って適切に活動が行われている。	◎		①作成された年度計画を確認し、年度計画達成状況(高専機構本部の書式)を点検する。

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R6	②今年度の活動内容 R6	③自己点検及び改善すべき事項 R6	④評価概要 R6	⑤評価 R6	⑥改善事項 R6	⑦改善事項を踏まえたR7活動計画
14	-2 自己点検・評価実施WG	委員長	総務企画係	3	①9/5に参与会を実施し、外部評価報告書を作成した(第3回点検評価・フォローアップ委員会 別紙1)。	改善すべき事項なし。	計画に沿って適切に活動が行われている。	◎		①外部評価(参与会)を開催し、その参与会報告を受け、本校の課題を取りまとめる。
14	-3 学習評価フォローアップWG	委員長	総務企画係	4	①アンケートの電子化について検討し、WebClassを利用して行うことに決め、授業アンケートを前期末と後期末にWebClassを利用して実施した。 ②R5年度の学習評価フォローアップ点検実施要領に基づき点検を行い、教員会議で報告した。R6年度の学習評価フォローアップ点検実施要領を作成した。これに基づきR7年度に点検実施予定。	改善すべき事項なし。	計画に沿って適切に活動が行われている。	◎		①学習評価フォローアップ点検実施要領を更新し、要領に基づき点検を行う。 ②授業アンケートの簡素化(電子化)を検討する。 ③成績評価資料の保存方法を検討・整理する。
15	国際交流室会議	室長	教務係	1	①JASSOと高専生の海外活動支援事業(機構本部)を活用し、学生の海外渡航を十分に支援できた。専攻科生の渡航は13名、5年生の海外研修は8名、シアトル研修12名、台湾研修30名、その他10名であった。 ②シアトル未来形人材育成プログラムに加え、低学年で安価に訪問できる台湾の半導体に関する学習向け渡航プログラムをスタートさせた。R7年度も継続して実施予定であり、学生の海外渡航を促す仕組みになっている。 ③4Eは海外研修旅行を行うことができた。行先は上記台湾研修と同じく、台湾の国立陽明交通大学と台北市内であった。	①本部のグローバルエンジニア育成事業の採択および支援決定が5月過ぎになったこともあり、最終的な旅行金額が決まらず、台湾参加者やシアトル参加者の学生および保護者から金銭面での質問があったとき明確な回答ができなかった点を改善したい。R7年度も同事業の予算を研修に充てる予定であるため、優先度を決めて予算確定前に金額決定ができることが望ましい。 ②研修旅行への支援金額の決定が遅れたこと、支援金の利用制限によりOB会からの支援を使わないと全員に一律給付ができなかったことは問題であると感じている。R7年度の海外活動支援事業へ働きかけを行ってきたこともあり、R7年度は支援対象の条件が大幅に緩和された。このため、一律給付が行いやすくなったと考えている。	活動計画の通り、適切に活動していた。	◎	引き続き、学生の活発な渡航の希望に対して支援を続けていきたい。	①JASSO、その他補助金を十分に活用して学生の海外渡航を支持する。 ②シアトル未来形人材育成プログラム、台湾への渡航プログラムを継続し実施する。 ③海外への研修旅行を目指し、担任と連携して海外渡航のリクエストがあれば対応できる体制を作る。 ④その他各大学へでの実施イベントへ学生を派遣し、海外での活動を支援する。
16	人権委員会	事務部長	人事係	3	①ハラスメントに関する案件が発生した際、都度人権委員会を開催し、対応した。 ②その他人権やハラスメントに関する啓発及び研修の企画・実施を行い、人権侵害やハラスメントの防止に努めた。 ・人権講話の開催(9/11) ・「心の輪」の配布(7/5、9/27、12/25、2/21) ・人権教育主任会への出席(2/20)	適切に実施した。	活動計画の通り、おおむね適切に活動していた。	○	より効果(効率)的な人権やハラスメントに関する啓発及び研修を模索されると良い。	①ハラスメントに関する案件が発生した場合、人権委員会として適切な対応を行い、必要に応じて第三者の導入を検討する。 ②その他人権やハラスメントに関する啓発及び研修の企画・実施を行い、人権侵害やハラスメントの防止に努める。
17	情報セキュリティ管理委員会	情報処理センター長	図書・情報係	1	①R6年度中に実施したソフトウェア管理実施細則の改正内容について確認した。R6年度末までに実施予定の情報システムユーザガイドラインの改訂及び情報処理センター利用内規、運営規程の改正について確認した。 ②R6年度中に実施した学生及び教職員対象の情報セキュリティ教育について確認した。	改善すべき事項なし	活動計画の通り、適切に活動していた。	◎	関連する規則・内規の見直しを続けていきたい。	①情報セキュリティ推進委員会の活動状況を確認する。
18	情報セキュリティ推進委員会	情報処理センター長	図書・情報係	6	①サーバ及びクライアントのシステム台帳を更新した。 ②脆弱性情報等の情報セキュリティ関連情報を毎月学内で共有して注意喚起した。 ③新入生対象の情報倫理・セキュリティ研修を実施した。 ④教職員対象の情報セキュリティ研修を実施した。 ⑤標的型訓練メールの開封率は2.3%で過去最少となった。 ⑥情報セキュリティ監査に向けた資料準備、打合せ(8回)及び監査対応を行なった。また、指摘事項対応として、 ・情報システムユーザガイドラインの改訂 ・VPNへの多要素認証の導入 ・ユーザIDの取扱いに関する手順書作成等を行なった。 ⑦サイバーセキュリティ人材育成事業(K-SEC)参加学生のサポートを行なった。 ⑧教職員向け誓約書及びセルフチェックリスト、及び学生向け情報セキュリティ宣誓書を提出させた。 ⑨偽セキュリティ警告についての確認及び対応作業手順をまとめた。 ⑩ソフトウェア管理実施細則を制定した。	改善すべき事項なし	活動計画の通り、適切に活動していた。	◎	引き続き、常に最新の情報提供と研修内容としていきたい。	①サイバーセキュリティ対策規則に基づきサーバ及びクライアントのシステム台帳を更新する。 ②高専CSIRT提供の情報セキュリティインシデント情報を学内で共有して注意喚起する。 ③新入生対象の情報倫理・セキュリティ研修を実施する。 ④教職員対象の情報セキュリティ研修を実施する。 ⑤標的型メール訓練の開封未報告者に注意喚起する対策を行なう。 ⑥セキュリティ監査の指摘・助言事項について実施可能な対応を行なう。 ⑦教職員向け誓約書及びセルフチェックシート、及び学生向け情報セキュリティ宣誓書を提出させる。
19	テクノセンター運営委員会	テクノセンター長	研究協力係	8	■テクノセンター全般 ・地域連携協会の、本校産学官連携コーディネータを通じて産学官連携を推進した結果、本年度は、科学研究費保有課題代表者32件(新規11、継続21)、共同研究17件、受託研究6件・受託事業1件、寄附金23件、岐阜高専基金22件、助成金42件であった。 ・テクノシンポジウムを本校で2月5日に開催した。 ・高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業に関する設備等の運用のためスタートアップ教育推進室運営内規を制定した。 ■技術開発部門 ・研究シーズ集、地域連携協会会報などをウェブ上で公開した。 ・岐阜テクノフェアへブースを出展した。ネットワーク大学コンソーシアム岐阜、岐阜大学協会の、中部イノベーションと連携を通して地域連携を推進した。 ■技術教育部門 ・ものづくりリテラシー教育実習に93名、科学技術リテラシー教育に16名の単位認定を行った。	・活動状況は良好である。 ・地域連携協会と本校との連携について検討を行う。	活動計画に則した内容が実施されている。	◎	必要となる連携に関する検討を進めていただく。	■テクノセンター全般 ・テクノシンポジウムの開催 ・本校産学官連携コーディネータを通じて産学官連携の推進 ・テクノセンター施設を活用した研究活動、課外活動の推進 ■技術開発部門 ・本校地域連携協会、岐阜県工業会等外部機関との連携を通して地域連携を推進する ・研究シーズ集、地域連携協会会報などをウェブ上で公開して情報発信する ■技術教育部門 ・リテラシー活動、スタートアップ活動を通して、学生の教育活動を行うとともに地域連携を推進する

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R6	②今年度の活動内容 R6	③自己点検及び改善すべき事項 R6	④評価概要 R6	⑤評価 R6	⑥改善事項 R6	⑦改善事項を踏まえたR7活動計画
19	-1 スタートアップ教育推進室	室長	研究協力係	-	-	-	-	-	-	(R7新設) ①起業家工房の整備をし、学生の利用を促す。
19	-2 科学技術リテラシー教育推進室	室長	技術室	1	今年度からリテラシー教育のテーマをコンテスト等にも対応するよう拡大し、改修のための活動場所に制限を受けるD科を除いた全学科からテーマが提案され、募集テーマ数は18と過去最高であった。複数のテーマに参加することを認め、単位修得者数は本科93名、専攻科16名であり、昨年度に次ぐ多数となった。今年度はコロナ禍の影響で人数制限等の制約が残るものもあったが、大小さまざまなイベントにおいて、学外での活動を行うことができ、また新規会場（モレラ岐阜）でのイベントも2回開催した。 ・5/22に学生の募集を開始した。 ・1/15に活動報告会を開催し、テーマごとにポスター発表を行った。	参加人数は例年増加しており、活動は非常に良好である。改修の影響でD科のテーマがなかったがD科以外の全学科からテーマを提案でき、色々な学科の学生が混ざり1つのテーマに取り組む機会を与えられていることは、学科横断教育活動の観点からも有用な活動となっていると考えている。例年参加学生が増加し、現在は参加者が全校学生の約1割になっている。リテラシー教育推進室員の教員は増えず、教員一人当たりの負担増加が問題となっていたが、テーマ数と複数教員で担当するものが増え、全体として教員の負担を若干減らせる方向になった。さらなる対応が望まれる。	活動状況は良好である。	◎	合理的運営により関係部局の負担軽減の方向に進められれば良い。	・活動内容を限定せず、教育活動についてコンテスト等を含めた多種多様なテーマで展開できるよう拡充していく。 ・募集の段階から積極的に呼びかけ、テーマ数と担当教員を増やし、教員一人当たりの負担軽減を図る。 ・合理的運営は進んでいるため、さらなる負担軽減について検討を進める。
19	-3 若駒連携推進室	研究主事	研究協力係	3	若駒会の予算を活用して、学生の資格試験の表彰については、内容を確認し予算内での対応を確認した。社会人実践力開発セミナーに関しては、責任者と会議を2回行い、その内容や効果を確認し、来年度の活動に反映させた。	所定の目的を達成することができた。今後も連携を強化するための検討を行う。	活動状況は良好である。	◎	必要な連携強化を進めていただく。	・若駒会の活動の中で、社会人実践力開発セミナーの状況を分析し、予算的な問題を検討するとともに、学内との連携を図る。
19	-4 知的財産委員会	テクノセンター長	研究協力係	3	・発明届に対する審査、学校裁量手続きによる知的財産の権利化、特許権の権利存続について審議した。	・活動状況は良好である。	活動状況は良好である。	◎	特になし。	新規審査、審査請求対応、権利消滅審議等について適切に対処する。
19	-5 機器分析室運営委員会	委員長	研究協力係	1	①レーザー顕微鏡の対物レンズを修理した。AFMを導入した。 ②社会人実践力開発セミナーとして外部の方に向けて機器の講習を行なった(9/5)。 ③メール(チャット)会議を実施した。	当初の目的を達成した。電気情報工学科の技術職員が欠員になるので、その補填について検討する必要がある。	活動計画に則した内容が実施されている。	◎	関係職員欠員補填検討を進めていただく。	①技術職員を欠員を解消し、機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理する。 ②申し込みがあった場合は、利用講習会を実施する。
20	メディア委員会	研究主事	図書・情報係	6	■図書館部門 ①図書館の効果的な活用を進めるために、導入する設備の検討を進めた。 ②利用者の増加を図るために、リテラシー教育の活動とのタイアップを進めた。 ■情報処理センター部門 ①情報リテラシーについては、1年生を対象に研修を行い、対応スキルの教育を行なった。 ②教員や研究室のPCに関しては、情報監査に対応して、管理体制を構築した。	所定の目標を達成することができた。図書館や情報処理センターでは、今後関連する課題である論文購読契約やBYODに対応する体制を構築してゆく。	活動状況は良好である。	◎	特に無し。	■図書館部門 1) 図書館の設備について、効果的な活用のための整備計画を検討する。 2) メディアなどを活用して広報活動を行い、利用者の増加を図る。 ■情報処理センター部門 1) 学内無線LANアクセスポイントの更新を実施する。 2) 教育電算システムのOSの更新を実施する。
20	-1 IT技術管理WG	情報処理センター長	図書・情報係	1	①演習室の削減方針とR9からのBYODの導入を決定し、R7募集要項にPCの購入が必要となることを明記した。 ②技術職員がIT人材育成研修会に参加した。また、情報推進本部連絡会議に5回参加して情報収集した。これらを踏まえてセンターの打合せで作業スケジュールを確認した。 ③高度化推進経費及びマスタープランに応募して更新費用の一部を確保した。APの更新について業者との打合せを1回行った。1号館CRの無線電波強度分布を測定してAPの更新方針を定め、1,2,5号CRの更新作業を終了した。	適切に実施した。	計画に基づき、適切に実施された。	◎	教職員、学生に影響する事項について、引き続きその都度周知をお願いしたい。	①次期高専統一ネットワークの更新に向けて、ネットワークの論理設計を行う。
21	学生相談室会議	室長	学生係	9	①1回会議を開催し、学生支援に関する情報共有を行った。 ②学生の生活状況、ストレス状況などを把握するためのアンケート調査を6月と11月に実施した。 ③学生やその家族のメンタルヘルスを維持するため、Teamsを利用したオンライン面談、電話相談を併用した。 ④1・2年生を対象に特活時間を利用して5月、7月メンタルヘルズ講座を、11月、1月にコミュニケーションに関する講演会を実施した。 ⑤業務体制に合わせた関連規程の改正を検討し、ハラスメント窓口業務に関する規定とフローを改正した。 ⑥9月に人権・いじめ対策・コンプライアンス総合SD・FD研修を開催し、その中でいじめと発達障がいに関する講演会を実施して、学生支援の質の向上を図った。	昨年度に引き続き、橋本特命教授と岡本保健師の参画を得て体制の充実を図ることができた。合理的配慮を申請した学生とその保護者に対して丁寧な対応ができた。また、重大事案に対しても、顧問弁護士に相談し助言を仰ぎながら、迅速な対応とその後のフォローを進めることができた。担任や教科担当の先生方、クラブ担当の先生方からの相談も増え、学生の過ごしやすさや学生生活を検討し、学びやすい環境を構築するために組織として対応できていると考える。規定の改正については、引き続き問題点がないかをその都度注視して、改善の余地があるならば確認をしていく必要がある。	会議の目的に対応した活動が十分にできている	◎		①1回会議を開催し、学生支援に関する情報共有を行う。 ②学生の生活状況、ストレス状況などを把握するためのアンケート調査を行う。 ③学生やその家族のメンタルヘルスを維持するため、Teamsを利用したオンライン面談、電話相談を併用する。 ④1・2年生を対象に、特活時間を利用してメンタルヘルズ、コミュニケーションに関する講演会を実施する。 ⑤業務体制に合わせた関連規程の改正を検討する。 ⑥研修等により、引き続き学生支援の質の向上を図る。
22	教員会議	校長	総務企画係	9	・定例会議7回開催、臨時会議2回開催 ①主管会議・運営会議にて審議および協議された事項について周知報告を行い、意見を聴き、本校の意思統一を図った。 ②定例会議7回開催、臨時会議2回開催。	適切に実施した。	活動は良好である。	○	各種会議の報告について、学生に関する情報や学校行事に関する内容については、全教員が情報を共有できる教員会議で詳しく説明することを期待する。	①主管会議・運営会議にて審議および協議された事項について周知報告を行い、意見を聴き、本校の意思統一を図る。 ②年間7回の定例会議を開催する。
23	学級担任会議	教務主事	教務係	4	①4回の全体会議と研修旅行等関連の会議を開催し、学科別情報交換会等で学級担任間の連携をとった。 ②会議時以外でも随時教務主事から直接教職員、学生に連絡（学生には担任からフォローしていただく）体制を維持した。	当初の計画通りの活動を実施した。引き続き担任間の情報共有を進める。	活動は良好である。	◎		①4回の全体会議と研修旅行等関連の会議を随時開催し、学級担任間の連携を図る。学級担任会議では、学科毎の分科会を行い学科内での情報共有を促進する。 ②会議以外にも随時、学生への連絡体制を維持するために、学級担任への連絡を行う。
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生係	3	定例である年間3回のクラブ顧問連絡会議を全て実施した。定例の会議は、概ね連絡事項、依頼事項等を正確に伝えられ、その役割を概ね果たした。	活動状況は良好である。文化系の一部のクラブ間では、合併管理も定着し、業務削減が進んでいる。クラブ顧問に関する業務内容やエフォートは、高専のみならず、中・高校でも話題であり、高専も常に変更や改革の意識を持っておく。	クラブ指導の負担軽減が実現している	◎	さらなる改革を期待します	①令和6年度と同様の活動を維持する。 ②各クラブ顧問でエフォートの幅は、公式戦を時間外業務命令にする等で補う。 ③従来の各種制度や慣例を改革する、あるいは従来とは異なる活動を推進する場合には、コンセンサスが得られるよう丁寧に説明する。
25	若駒奨学基金運用委員会	校長	総務企画係	1	①前年度の規則改正に則り、若駒奨学基金について適切な管理・運営（助成金の助成）を行い、学生の資格取得や学会発表参加の促進を図った。	適切に実施した。	基金を活用した学生支援が適切に行われた	◎		①若駒奨学基金について適切な管理・運営（助成金の助成）を行い、学生の資格取得や学会発表参加の促進を図る。

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R6	②今年度の活動内容 R6	③自己点検及び改善すべき事項 R6	④評価概要 R6	⑤評価 R6	⑥改善事項 R6	⑦改善事項を踏まえたR7活動計画
26	特別支援検討委員会	学生主事	学生係	14	配慮申請書の提出があった学生に対する検討を委員会で実施した。会議回数は昨年度12回から今年度14回に増加した。検討結果の実行は、教務会議、学生相談室等と連携し、適切かつ速やかであった。	学生及び保護者からの要望に応じて適切に会を開催し、学生を支援できた。特別支援を要する学生数を取りこぼさないため、学級担任、学生、保護者への案内を検討する。	活動状況は良好である。	◎	学生・保護者への案内については、委員会に過度な負担がかからないよう、周知内容を精査した方がよい。	①学生及び保護者からの要望を受けて、学生の学修や学校生活に支障が出ないように、迅速かつ個々の状況に合った対応をする。 ②提出された配慮事項については、委員の各種意見を尊重しながら慎重に審議・検討する。
27	ダイバーシティ推進室 (旧男女共同参画推進室)	教務主事	人事係	3	①男子更衣室・女子更衣室を使用することに抵抗がある学生等のため、障害学生学習支援経費により、6号館トイレにフットングボードを設置した。設置の際には、関係者と随時情報共有をしながら対応した。 ②GCON2024について教職員・学生に周知を行い、今年度1チームがエントリーした。その他本部等から来るダイバーシティ関係の通知について、適切に周知した。	適切に実施した。	活動状況は良好である。	◎	4号館と6号館のフットングボードについて、年度初頭に担任と専攻科長に情報共有した方がよい。	①ダイバーシティ推進の観点からの施設整備改善に活かされるよう体制を整えたとともに、関係者への情報共有を徹底する。 ②学生および教職員に対し、適切な啓発活動を検討・実施する。
28	リスク管理室会議	校長	総務企画係	1	①学生等の学生等の安全・教育研究等にかかわる重大な事態や、本校の社会的信頼を損なう事態が発生した際に速やかに開催し、必要な措置を講じた。	適切に実施した。	必要に応じて適切に実施された。	◎		①感染症の発生、学生等の安全・教育研究等にかかわる重大な事態や、本校の社会的信頼を損なう事態、施設管理上の重大な事態が発生した際に速やかに開催し、必要な措置を講じる。
29	キャリア支援室	教務主事	教務係	2	①キャリア教育プログラム（共通・専門）をWEB公開し、実施報告、次年度計画立案を実施した。 ②面談40件（面接練習30、進路相談8、その他2）を実施した。キャリアサポートシステムでは、2522件の企業情報、12件の大学情報が掲載されている。	当初の計画通りの活動を実施した。引き続きキャリア教育プログラムの実施と学生サポートを進める。	活動状況は良好である。	◎		①キャリア教育プログラム（共通・専門）を継続する。 ②学生のキャリアサポート、就職・進学関係情報提供を継続する。 ③キャリアプログラム12/10を、学校行事として実施する。
30	いじめ対策会議	校長	学生係	11	定例の会議を6回、個別案件の会議を5回開催した。定例の会議では、いじめ防止対策にかかる評価と今年度目標の確認、いじめに関するアンケート調査内容の検討及び実施、いじめに関するアンケート結果の把握、いじめ講演会の実施、外部評価等について実施及び検討した。	適切に実施された。	定例会議および個別対応について、適切に実施された。	◎		令和6年度と同様の事項を実施及び検討するため、会議の開催を年間6回予定している。併せて、アンケート項目の検討やいじめ講演会の実施についても検討する予定である。